

## 本の情報

詳細は [GitHub Repository](#) をご覧ください。

## (一) 神の与える信仰

聖書朗読:ヘブル人への手紙十一章一から十一節

神のあらゆる宝物へと続く道がたった一つだけあることを私は信じています。それは信仰の道です。信仰によって、ただ信仰のみによって、私たちはその宝物がどんなに素晴らしいものであるかを知り、神の祝福にあずかることができ、天に上げられた私たちの主の栄光に参与することができます。信じる者にとって、神の約束はすべて「しかり」であり「アーメン」です。

神は、私たちが神ご自身の道を通して神のもとに来るようにと願われています。その道に踏み出すには、恵みのとびらを開けばよいのです。道はすでに作られています。美しい道です。すべての神の聖徒は、この道を通して神の臨在に入り、休息を見出すことができます。義人は信仰によって生きる、と神が定められました。岩なるキリスト・イエスに基礎を置かないものはすべて、失敗に終わることを私は知っています。キリストこそが唯一の道であり、真理であり、いのちです。信仰の道とは、キリストの道のことです。キリストをその満ち満ちたさまで受け取ることです。キリストのうちに歩むことです。キリストのよみがえりのいのちを受け取るなら、私たちは満たされ、突き動かされ、変えられます。神のすべてのみこころに、いつも心からアーメンと言える場所へと私たちは導かれます。

使徒の働き十二章を読むと、ペテロが監獄から出されますようにと人々が夜通し祈っていたことが分かります。教会は熱心ではありましたが、信仰は欠けていたようです。たゆまず祈り続けるほど彼らが熱心だったことは賞賛に値するのですが、その一方で彼らの信仰のほうは、祈りに驚くべきこたえが与えられることを想定していませんでした。教会の誰よりも信仰を持っていたのは、女中のロダでした。戸を叩く音がすると、ロダは駆け寄りました。ペテロの声がすぐに聞こえました。彼女は喜んで駆け戻り、ペテロが門の前に立っていることを知らせました。ところが人々は「あなたは気が狂っている。そんなはずがない」と言いました。それでも彼女は本当にペテロがいたと言い続けました。

ザカリヤとエリサベツは確かに子どもを持つことを欲していました。しかし、御使い

がザカリヤのもとに来て、息子が与えられることを告げたとき、彼は不信仰に満たされました。それで御使いは言いました。「あなたはものが言えず、話せなくなります。私のことばを信じなかったからです。」(ルカー・二〇)

でも、マリヤを見てください。御使いが来た時、マリヤは言いました。「あなたのおことばどおりこの身になりますように。」(ルカー・三八)彼女は神のみこころにアーメンと言いました。神が私たちの人生に願われているのは、アーメンと言うことです。内なるアーメン、力強く動くアーメン、神の霊に息吹かれたアーメンです。「神が語られたのだから、そうである。そうでないことはありえない。そうでないことは不可能である。」

ヘブル人への手紙十一章五節を調べましょう。「信仰によって、エノクは死を見ることのないように移されました。神に移されて、見えなくなりました。移される前に、彼は神に喜ばれていることが、あかしされていました。」

スウェーデンにいた頃、主が力強く働いて下さいました。私が一つか二つの説教を終えると、リーダーの方々が私を呼んで言いました。「あなたについてたいへん不思議なことを聞きました。それが本当かどうか知りたいと存じます。神があなたと共におられて働かれるのが確かめられれば、そのことがスウェーデンに大きな祝福となることを私たちは知っています。」

「はい」と私は言いました。「どんなことでしょうか。」

「それがですね」と彼らは言いました。「信頼できる筋から聞いたのですが、あなたはお自分が復活のからだをすでに持っていると言っているそうですね。」私がフランスにいたときに、そういうことを信じている通訳者に当たったことがあります。その通訳者を立てて一度か二度、説教をしてから分かったことですが、その人は自分独自の考えを混ぜ込んで話していました。もちろん私は知りませんでした。この兄弟たちに言いました。「私が個人的に確信していることを皆さんに教えましょう。もし私がエノクの証しを持っていれば、天に移されるに違いないと信じています。エノクは神に喜ばれる証しを得た瞬間に移されたのだと私は信じています。」

天に移されることは神のみこころのなかにあることです。だから私は、神が私たちの信仰を強めてくださるようにと祈ります。しかし、天に移されるのは、聖なる従順と神に

喜ばれる歩みをした結果として与えられるものだと覚えていてください。エノクもそうでした。私たちも同じように、御霊にあって神と共に歩み、主と交わりを保ち、神の聖なる微笑みの中で生きなくてはならないと私は信じています。神が御霊によって私たちを動かして、神と共に歩んでいたエノクがいたところにまで私たちを導いて下さるようにと祈ります。

信仰には二種類あります。一つは自然の信仰です。もう一つは超自然の信仰ですが、これは神からの賜物です。使徒の働きでパウロは、主が彼を任命する際に語られたことばをアグリッパに告げています。「彼らの目を開いて、暗やみから光に、サタンの支配から神に立ち返らせ、わたしを信じる信仰によって（欽定訳：わたしのなかにある信仰によって）、彼らに罪の赦しを得させ、聖なるものとされた人々の中において御国を受け継がせるためである。」（使徒二六・一九）

パウロの信仰なのでしょうか。いいえ、ここで言及されているのは聖霊が与えて下さる信仰のことです。その信仰は、私たちが神と共に前進し続けるようにと、神が与えて下さるものです。私たちの信仰とイエスさまの信仰のこの違いを皆さんに知っていただきたいと思います。私たちの信仰には終わりがあります。私たちの信仰が終わると、ほとんどの人がこう告白する場所に来ています。「主よ、私はもうこれ以上進めません。これまで自分の力で来ましたが、これ以上進めません。私が持っている信仰は使い果たしました。今、立ち止まって、ただ待つことしかできません。」

ランカシャーでのある日のこと、数人の病人を訪問した時のことを私は覚えています。ある家に招かれると、若い女性がベッドに寝ていました。八方ふさがりの状況でした。彼女の正気は失われ、悪魔的な力がそこに現れているのが私には分かりました。彼女はごくふつうの若くて美しい女の子でした。夫が、といっても彼もごく若い男の子でしたが、赤ん坊を抱いて部屋に入り、かがんで妻にキスをしました。その瞬間、妻は身を投げ出して部屋の片隅に逃げました。気の狂った人のようなふるまいでした。私は胸がひどく痛みました。それから夫は赤ん坊を抱き上げて、赤ん坊のくちびるを妻の頬につけました。今度も、妻は野生動物のように怯えて逃げました。私は付き添い人にたずねました。「治してくれる人はいますか。」彼らはため息をついて言いました。「何もかも試しましたよ。」私は言いました。「でも、霊的な治療はしましたか。」夫は怒

鳴りちらしました。「霊的な治療だと。七週間も不眠不休で看病してもこんなにひどいありさまなのに、私たちが神を信じているとでも思うのか!」

そのとき、十八歳くらいのその若い女の子が私のほうを見てにっこりと笑いかけて、ドアから出て行きました。私はそれを見て、あわれみに駆られました。何かをしなくてははいけませんでした。それが何であるとしても。それから私は、自分の持っているすべての信仰をもって、天に入りはじめました。私の霊はすぐに家から出ていました。皆さんに言いたいことはこうです。私は地上で祈って神から何かをいただける人を見たことがありません。神から何かをいただくためには、祈りによって天に入らなくてはならないのです。そこにすべてがあるからです。地上の領域に生きていて天から何かを期待するなら、何も来ません。そして私が見てきたとおり、神の臨在のなかで、私の信仰が限界に至ると、別の信仰がやってきます。打ち消されることのない信仰、約束を信じる信仰、神のことばを信じる信仰です。その臨在のなかから、私は地上に戻ってきます。しかし、もう同じ人間ではありません。神が、地獄であれ何であれ、すべてを揺り動かす信仰を与えてくださいました。

私は言いました。「イエスの御名によって、この人から出て行け!」彼女はその場で倒れこみ、眠りにつきました。十四時間後に目覚めると、彼女は完全に正気になって、まったく正常な人になっていました。

ここに至るまでにひとつの過程があります。エノクは神と共に歩みました。すべての歳月を通して、彼は霊において天に入り、つまづくことなく、信仰をかたく保ち、信じ、見て、神との親密な協力者となり、神に触れました。それゆえに地上のものごとが動き去り、彼は天へと移され始めたに違いありません。ついに、何ものも彼を引き止めることはできなくなりました。ハレルヤ!

第一コリント十五章には私たちのからだか「弱いもので蒔かれ」(四三節)御力のうちによみがえらされる、と書いてあります。私たちが天に引き上げられることを求めるにつれて、主はその御力についていま何かを教え、私たちをその御力のうちに保とうとしてくださるように、私には思えます。そうなれば、私たちはもはや弱いもので蒔かれなくなるでしょう。

若いころからずっと、神が私にいつも与えてくださったものが一つあります。それは聖書の風味と味わいです。私は神の御前でこう言えます。この聖書のほかには何も読んだことがない、と。だから、私はほかの本のことを何も知りません。本の中の本である聖書を読むほうが、あなたのたましいにとって、あなたの信仰の成長にとって、あなたの神にある人格を建て上げることに、有益だと思えます。そうすれば、あなたはたえまなく変えられて、神とともに歩むにふさわしい者に造られていきます。

「信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならないのです。」(ヘブル一・六)

信仰以外のいかなる方法によっても、神に喜ばれることはできないことが、私にはわかります。信仰から出ていないことは、みな罪だからです。信仰による計画こそが神の理想と原理であることを、神は私たちに知ってほしいと願われています。それで、ヘブル人への手紙十二章二節の「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい」という美しいことばを私は思いのなかに保つことを愛しています。イエスさまは信仰の創始者です。神が世界を形造られるとき、イエスさまを通して働かれました。「すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。」(ヨハネ一・三)こんなにも素晴らしい救いを私たちに与えようという、あふれ出る豊かな喜びのゆえに、イエスさまは生きた信仰の創始者となってくださいました。そして、生きた信仰のこの原理をとおして、私たちの信仰の創始者であり完成者であるこの方を一心に見つめながら、主の御霊によって私たちは栄光から栄光へと同じ姿に変えられていきます。

神は、あなたが過去に得てきたものよりも素晴らしいものを、あなたのために備えておられます。神が喜んで与えようとされる信仰、力、いのち、勝利の完全な充満のなかに飛び込んでください。あなたが過去のものを忘れ、キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、ひたむきに前に向かって進むことができるように、それらの充満の中に入ってください。

## (二) 尊い信仰

聖書朗読: ペテロの手紙第二、一章一節～八節

私たちの理解は鈍くなっています。この世の心づかいで私たちの目がふさがれることがあまりに多いからです。しかし、私たちが神に目を開くことができるなら、今まで過去に見てきたものが足元に及ばないほどの偉大な神のご計画が、私たちの未来のために用意されているということを理解するでしょう。私たちにはとうてい不可能に思えるようなことを可能にするのが、神の大きな喜びです。神だけが通行権をもつ場所に私たちがたどり着くとき、もやに覆われて誤解させられていたあらゆることが晴れ上がります。

ペテロの書いている同一の尊い信仰は、神が私たち全員に気前よく与えようとしておられる賜物です。そして神はそれを受け取るよう私たちに願っておられると、私は信じています。それは、私たちが国々を征服し、義の働きをし、時が来れば獅子の口をふさぐことができるようになるためです。どんな状況にあっても私たちは勝利を収めることができます。なぜなら、私たちは自分自身を省みてもまったく自信がありませんが、ただ神にあっただけのみ自信があるからです。良い報告を持ち帰り、決してつぶやかず、勝利の場所において、人間の秩序ではなく神の秩序にとどまるのは、いつでも、信仰に満たされた人々です。神ご自身が彼らのうちに来て宿ってくださったからです。

この同一の尊い信仰は、すべての人のためのものです。けれども、あなたのたましいのなかには神に取り扱っていただかなければならない障害があるかもしれません。私が陶器師の器のように砕かれるまでに、私のたましいの上に千個もの自動車のエンジンが載せられているように感じました。砕かれたたましいほど神の深みに入る道はほかにありません。神の御力に入る道はほかにありません。神は、私たちが願うこと思うことのすべてをはるかに超えて、豊かに私たちのために与えてくださいます。

私は神をみことばによって理解します。印象や感覚によっては理解できません。感情によっては神を知ることはできません。私が神を知るようになるとすれば、みことばによって神を知ることとなります。私は自分が天国に行くことを知っていますが、きっと天国に行くだろうなという私の感覚がその根拠になっているわけではありません。私が

天国に行くのは、神のことばがそう言っているからです。私は神のことばを信じています。そして「そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。」(ローマ一〇・一七)

マルコの福音書十一章二十四節にこうあります。「だからあなたがたに言うのです。祈って求めるものは何でも、すでに受けたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになります。」直前の節は山を動かすこと、つまり困難を取り除く話をしています。うわべを取り繕っても何にもなりません。現実を、私たちの神の現実に働かれることを求めなければなりません。私たちは神を知らなければなりません。神との話し合いのなかに入り、それを維持できなければなりません。また、神に対するすべての申し立てがいつもみこころにかなったものとなるように、私たちに向けられた神のみこころをも知らなければなりません。

この同一の尊い信仰があなたの一部になるにつれて、その信仰に促されてあなたは大胆に何でもするようになります。どうか覚えていてください。神は大胆な人を求めておられます。あらゆることに対して大胆な人、神にあって強められ、大胆に偉業を成し遂げる人を求めておられます。どうやって私たちはこの信仰のレベルに達するのでしょうか。あなたの自分なりの考えを遠くに行かせ、神の考えである神のことばを引き寄せましょう。あなたがみずからを空想によって建て上げるなら、間違った方向に行くこととなります。あなたは神のことばをつかんでいれば、それで十分です。ある人がみことばに関して次のような特筆に値する証をしました。「この聖書はほかの書物と比較になりません。比較は危険です。聖書は神のことばなのです。聖書は起源において超自然的、期限において永遠、価値において計りがたく、射程において無限、力において人を回心に導き、権威において無謬、重要さにおいて普遍的、適用において個人的、全体において神の靈感が与えられています。聖書をはじめから終わりまで読みなさい。聖書のことばを書きなさい。聖書のことばで祈りなさい。聖書をよく理解するよう努めなさい。それから聖書を伝えなさい。」

そしてじっさいに、神のことばは人を変えます。彼が神の手紙になるまでに変えます。神のことばは人の心を一新し、彼の人格を変え、恵みから恵みへと至らせ、混じり気のない神のご性質の相続人とならせます。神のことばに心を開き、みことばに靈感



を吹き込んでいる御霊をその心に受け取る人のなかに、神は来られ、歩み、彼を通して語られ、食事を共にしてくださいます。

私がニュージーランドのほうに出発したとき、たくさんの人たちが私を見送ってくれました。港に向かう車中で、インド人医師と同席しました。彼は寡黙で、言われるままに船に荷物を運び入れました。私は福音を語り始めました。もちろん、主が人々の間で働き始めてくださいました。船のセカンドクラスのフロアで若い男とその妻がいました。ふたりはファーストクラスの貴婦人と紳士の従者をしていました。私はこのふたりの若者たちに個人的にも公の場でも話をしました。ふたりはそれを聞いて、非常に感銘を受けました。そのとき彼らが仕えている貴婦人がひどい病気になりました。彼女は病気と孤独のなかで安らぎを得られませんでした。ふたりは医者を呼びましたが、医者は彼女になんの希望も与えませんでした。

それから、奇妙なジレンマが発覚しました。貴婦人は立派なクリスチャン・サイエンスの信者で、その宣教のためにあちこちを巡っていました。このジレンマのさなかで、彼らは私のことを思い出しました。私は彼女の病状を知り、彼女が何のために生きているかを知り、もう日も遅く、彼女の心の状態からすると一番シンプルな言葉しか通じないと分かって、こう言いました。「今あなたはひどい病気にかかっています。この病から救うためにあなたに話はしません。あなたのためにイエスの御名で祈ります。そして私が祈ると瞬間的にあなたは癒されます。」

私が祈った瞬間に、彼女は癒されました。これが同一の尊い信仰の働きです。そのとき彼女は動揺しました。すぐにも私は油を注ぎ込むことができる状態にありました。でも、私はできるかぎり苦い薬を注ぎ込みました。三日間、彼女を燃えかすのなかに置いておきました。私は彼女が恐ろしい状態にあるということを本人に教えました。彼女のいる場所がまったく愚かであり間違った考えでいっぱいになっている指摘しました。クリスチャン・サイエンスには何もなく、それは始めから嘘で、地獄からの最後の使者の一人からきているものだとししました。控え目に言っても嘘にすぎず、嘘を宣べ伝え、嘘を生み出しています。

それから、彼女は目覚めました。非常に忍耐強くなり、心が砕かれました。しかし、彼女をはじめに駆り立てたものは、彼女がこれまでクリスチャン・サイエンスを宣べ伝

えていた場所に、キリストのシンプルな福音を伝えに行くことでした。彼女は私に、あるものを捨てなければならないでしょうかと尋ねました。私はその「あるもの」が何であるか明言しません。それは吐き気をもよおす不快なものですから。私は言いました。「あなたがしなければならないことはイエスさまを見ること、イエスさまを選び取ることです。」彼女がイエスさまをそのきよさにおいて見たとき、ほかのものは出て行かなければなりませんでした。イエスさまがおられるところ、ほかのすべては去ります。

この出来事がドアを開きました。私は船にいるすべての人に福音を語らなければならなくなりました。このことで私は機会を得たのです。私が福音を語ると、神の御力が下り、罪の確信が来て、罪人たちが救われました。人々が次から次へと私の客室にまでついてきました。神がそこで働いてくださいました。

そのとき、このインド人医師が来ました。彼は「これからどうなるのでしょうか。もう私はこれ以上、薬を使えません」と言いました。「なぜですか。」「あなたのメッセージが私を変えたのです。でも私には基礎が必要です。いくらか一緒に過ごすお時間をいただけますか。」「もちろんです。」それから私たちはふたりきりで行きました。神が不毛の土地を破壊してくださいました。このインド人医師は新しい秩序のもとで、もとのインド人の状態に立ち返っていきました。彼はそこに医師の仕事を置き去りにしました。彼はもともとしていた素晴らしい仕事のことを私に話しました。彼はイエスさまを宣べ伝えるというもとの仕事に立ち返ったのです。

あなたが神への飢えを失ったなら、もっと神を求めて叫ぶことをしないなら、あなたは神の計画から外れつつあります。神以外の何ものによっても満たされない叫びが、私たちのうちから湧き上がらなければなりません。神は私たちに栄誉の幻を与えようとされています。それは、私たちがこれまで獲得したものよりも高いところにあるものです。あなたがある地点で立ち往生するなら、失敗した場所からやり直し、再生の光と天の御力のもとで再開してください。神はあなたに会ってくださいます。神があなたに自分自身の弱さを意識させ、砕かれたたましいになるよう導かれるなら、あなたの信仰は神ご自身と神のすべての供給源をしっかりとつかみ、神の光とあわれみがあなたを通して現されます。そして神が雨を送ってくださいます。

私たちはもう一度、神に自分を捧げようではありませんか。ある人は「私は昨晚、神

に自分を捧げました」と言いますが。

新しい啓示はいつも新しい献身をもたらします。神を求めましょう。

### (三) 御霊の力

聖書朗読 マタイの福音書十六章

パリサイ人とサドカイ人たちは、天からのしるしを見せてみよとイエスさまを試みました。イエスさまの答えは「あなたがたは空模様に見えるしるしは見分けられるのに、時のしるしは見分けられない」というものでした。イエスさまは、彼らの不信仰な好奇心を満たすようなしるしを与えようとなさいませんでした。「悪い、姦淫の時代はしるしを求めています。しかし、ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられません」(四節)と警告しました。悪い、姦淫の時代はヨナの物語につまずきます。けれども、信仰の目は、ヨナの物語のなかに主イエス・キリストの死と葬りと復活の素晴らしい青写真を見ることができます。

イエスさまがパリサイ人たちから去り、湖の向こう岸に行くと、弟子たちにこう言いました。「パリサイ人やサドカイ人たちのパン種には注意して気をつけなさい。」(六節)弟子たちは互いに議論を始めました。彼らが思い当たったのはせいぜい、パンを持ってくるのを忘れたということでした。彼らは何をすべきだったのでしょうか。そのときイエスさまはこのことばを発せられました。「あなたがた、信仰の薄い人たち！」(八節)彼らはいくつにもイエスさまと一緒にいたのに、理解力と信仰が欠如していたために、まだまだイエスさまの失望の種でした。彼らはイエスさまの教えようとしている深遠な霊的真理を理解できず、ただパンの手持ちがないことしか考えられませんでした。「あなたがた、信仰の薄い人たち。パンがないからだなどと、なぜ論じ合っているのですか。まだわからないのですか、覚えていないのですか。五つのパンを五千人に分けてあげて、なお幾かご集めましたか。また、七つのパンを四千人に分けてあげて、なお幾かご集めましたか。」(八～一〇節)

あるとき、イエスさまがペテロに言われました。

「シモン。どう思いますか。世の王たちはだれから税や貢を取り立てますか。自分の子どもたちからですか、それともほかの人たちからですか。」ペテロが「ほかの人たちからです」と言うと、イエスは言われた。「では、子どもたちにはその義務がないのです。しかし、彼らにつまずきを与えないために、湖に行って釣りをして、最初に釣れた

魚を取りなさい。その口をあけるとスタテル一枚が見つかるから、それを取って、わたしとあなたとの分として納めなさい。」(マタイ七・二五～二七)

ペテロは半生を漁師として生きてきましたが、銀貨をくわえた魚など捕まえたことがありませんでした。しかし、主は言い訳を好まれません。肉による言い訳は不信仰の泥沼に落ち込ませるのが常だからです。主は私たちが単純に従うことを好まれます。ペテロは釣り針に餌をつけながら「やっかいな仕事だな」とつぶやいたかもしれません。「でも、あなたがそう言われるなら、やってみましょう」と言いながら釣り針を海に垂らしたかもしれません。水中には無数の魚がいましたが、どの魚もペテロの餌を素通りして食いつきませんでした。銀貨をくわえたその魚だけが餌に食いついたのです。

ウェールズ地方のカーディフで、潰瘍をわずらっている女性が私のところに来ました。彼女はそのせいで二度、道で倒れたことがありました。彼女が集会に来ましたが、彼女の体内の悪しき力が彼女をその場で殺そうとしているようでした。彼女は倒れ、悪魔の力が彼女の患部を引き裂いていました。彼女はぴくりとも動かず、死んだようになりました。私は叫びました。「おお神よ、この女の人を助けてください。」それから私はイエスの御名によって悪しき力を叱りつけました。すると瞬間的に、主は彼女を癒してくださいました。彼女は起き上がり、偉大な志を持つようになりました。彼女は神の力を体内に感じて、証しをしたいとたえず願っていました。三日後に彼女は別の場所に行って、主の癒しの力を証し始めました。彼女は私のところに来て言いました。「みんなに主の癒しの力を伝えようと思います。このテーマについて何かトラクトをお持ちではありませんか。」私は聖書を彼女に手渡して言いました。「マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ。これらが癒しについての最高のトラクトです。」イエスさまの御力が現された出来事が福音書に散りばめられています。人々が福音書を信じるなら、それが神のみわざを確実に成し遂げるでしょう。

人々のなかに欠如している場所があります。信仰の欠如は、神のことばによって養われていないことが原因です。神のことばはあなたに毎日必要です。どうやって信仰のいのちに入ることができるでしょうか。神のことばに満ち満ちておられる生けるキリストに養われてください。キリストが生きておられるというこの栄光に満ちた事実と、

キリストの驚くべき臨在とに親しむと、神の信仰があなたの内側からだんだんと湧き出ます。「信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。」(ローマー〇・一七)

イエスさまは弟子たちに、人々がご自分について何と言っているかとお尋ねになりました。弟子たちは答えました。「バプテスマのヨハネだと言う人もあり、エリヤだと言う人もあります。またほかの人たちはエレミヤだとか、また預言者のひとりだとも言っています。」(一四節)そこでイエスさまは、弟子たちがそのことについてどう考えているかを知るために、質問をしました。「あなたがたは、私をだれだと言いますか。」(一五節)ペテロが答えました。「あなたは、生ける神の御子キリストです。」(一六節)するとイエスさまは彼に言いました。「バルヨナ・シモン。あなたは幸いです。このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。」(一七節)

単純なことです。あなたはイエスさまをどんな方だと言いますか。彼はどなたなのでしょう。ペテロと一緒に「あなたは生ける神の御子キリストです」と言えますか。どうやってこれを知ることができるのでしょうか。イエスさまのことは啓示されなければなりません。肉も血もこれを啓示しません。それは内なる啓示です。神はご自分の御子を私たちの内側に啓示し、内なる臨在に気づかせようとしておられます。そのときあなたは叫ぶでしょう。「私はイエスさまが私のものであることを知った！ イエスさまは私のもの！ イエスさまは私のもの！」「子と、子が父を知らせようと心に定めた人のほかは、だれも父を知る者がありません。」(マタイ一・二七)御子に関する力強い啓示を神からいただけるまで、神を求めてください。内なる啓示があなたを導き、あなたがどんなときにも揺るがされず、動かされず、いつも主のみわざに富んでいる場所に達するまで、神を求めてください。

この啓示のなかには素晴らしい力があります。「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。わたしは、あなたに天の御国のかぎを上げます。何でもあなたが地上でつなぐなら、それは天においてもつながれており、あなたが地上で解くなら、それは天においても解かれています。」(一八～一九節)ペテロは岩だったのでしょうか。いいえ。数分後に彼は悪魔に満たされたので、キリストはこう言わなければならませんでした。「下がれ。サタン。あなたはわたし

の邪魔をするものだ。」(二三節)この岩とはキリストのことでした。キリストこそが岩です。このことを確証する聖句はたくさんあります。彼がキリストであることを知っている人ならだれにでも、主は信仰の鍵と、つなぐ力と解く力を与えてくださいます。この事実をあなたの心に留めてください。

私はトロントで以上の内容を語っていました。人が心を尽くして神を信じるなら、その瞬間に、神は彼のなかにありありとした現実、実体、いのちを入れてくださるということを確認してもらおうとして私は懸命に話していました。そうです。神は彼の内側に住んでくださいます。そして新生にともなって、敵のあらゆる力よりも強い大能の御力が私たちの内側に注がれます。ある男性が集会の途中で抜け出しました。その夜、私が家に帰ると、彼は巨大で頑強で背の高い男を連れてきていました。この男は私に言いました。「三年前、私は神経が悪くなった。眠れなくなった。仕事もやめた。何もかも失った。不眠に悩まされ、私の人生は悲劇だ。」私は彼に言いました。「イエスの御名によって、家に帰って寝なさい。」彼は向きを変えましたが、帰りたくないようでした。でも私は「行きなさい!」と言いました。そして彼をドアから追い出しました。

翌朝、彼が電話をくれました。彼は私のホストに言いました。「先生にぐっすり一晩中眠れたとお伝えください。すぐにでも先生にお会いしたいです。」彼は来て、言いました。「私は新しい人です。新しいいのちを得たように感じます。それで、私の失ったお金を取り戻せますか。」「何もかも取り戻せますよ!」と私は言いました。「どうやってですか。教えてください」と彼は言いました。「今夜の集会に来てください。そこで教えましょう」と私は言いました。その晩の集会では神の力が力強く現されました。そこで彼ははげしく罪に胸刺されました。彼は講壇に近づきましたが、たどりつく前に倒れてしまいました。主が彼と彼のうちにあるすべてのものを変えてくださいました。彼はいま、成功したビジネスマンになっています。すべての過去の失敗は、神についての知識不足からきていました。どんな問題をあなたが抱えているとしても、神は悪魔を振り払うことができ、あなたを完全に換えることができます。神のような方はほかにいません。

ある日、私が電車で旅をしていると、客室に病人がふたりいました。母と娘でした。私はふたりに言いました。「さあ、このバッグのなかに、世界のどんな病気でも治せるものが入っていますよ。それを使って治療に失敗した例は知られていません。」ふたり

はとても興味をもちました。それで私はふたりに、どんな病気でも確実に治すこの薬について語り続けました。ふたりはついに、服薬を申し出る勇気ができました。それで私はバッグを開け、聖書を取り出して、「わたしは主、あなたをいやす者である」(出エジプト一五・二六)というあの節をふたりに読み聞かせました。失敗はありません。あなたが大胆に神を信じるなら、神はあなたを癒してください。人々は今日、自分たちを癒すことのできるものを求めてあらゆる場所を探していますが、ギルアデの乳香がすぐ手の届くところにあるという事実を忘れていています(訳注:乳香は旧約時代に傷を癒すために用いられた)。私がこの素晴らしい医者について話していると、母と娘の信仰が神に向かって解き放たれ、神はふたりを電車の中で癒してくださいました。

神はみことばをあまりにも尊いものとしてくださったので、もし聖書がもうこれ以上手に入らないとすれば、私はこの聖書を世界の何に替えても手放しません。みことばのなかにこそいのちがあります。みことばのなかにこそ徳があります。みことばのなかにこそキリストを見出します。キリストこそが私の霊、たましい、からだにとって必要な方です。みことばはイエスの御名の力と、イエスの血潮にあるきよめの力を教えてくれます。「若い獅子も乏しくなって飢える。しかし、主を尋ね求める者は、良いものに何一つ欠けることはない。」(詩篇三四・一〇)

あるとき、ある男性が小さな女性に連れられて私のところに来ました。「どうしたのですか」と私は言いました。「この人は仕事に就いても、いつも長続きしません。彼はアルコールとニコチンの毒の奴隷なのです。普段は明るくて聡明な人なのですが、このふたつに打ちのめされています。」私たちにつなぐ力と解く力を与えたという主のことばを私は思い出し、彼に自分の舌を出すよう言いました。主イエス・キリストの御名によって、これらに彼を縛りつけている悪しき力を追い出しました。私は彼に言いました。「男の方よ、あなたは今日、自由です。」彼はまだ救われていませんでした。しかし、主の御力が彼を解放したことを認識したとき、彼は礼拝に来るようになりました。自分は罪人だと公に告白しました。主は彼を救い、バプテスマを授けてくださいました。二、三日たって私は「調子はいかがですか」と聞きました。「解放されました」と彼は言いました。神が私たちに、つなぐ力と解く力を与えてくださったのです。

別の場所で、ある女性が私のところに来て言いました。「私は二十年間、嗅覚が不



能です。私のために何かしていただけますか。」私は「あなたは今夜、においがかぐよ  
うになります」と言いました。人が二十年間も失っていたものを、私を与えることがで  
きるでしょうか。私ではありません。私は覚えています。神の教会が建てられた岩、岩  
なるキリスト・イエス、そして、ご自分のつなぐ力と解く力を与えようという約束のこ  
とを。私たちを支える神のことばが私たちのものであると知れば、私たちは何でもする  
勇気を得ます。主イエスの御名によって、私はこの女性を解きました。彼女は家に走っ  
て帰りました。テーブルには良いものがいっぱいに並べられていましたが、彼女はそ  
れに触れようとしませんでした。彼女は言いました。「私は香りのごちそうを食べてい  
ます！」主ご自身がご自分のことばを実証してくださり、この不信仰と背教の時代にあ  
っても、みことばが真理であることを証明してくださるという事実のゆえに、主をほめ  
たたえます。

別の人に来て言いました。「あなたは私のために何ができますか。十六回、手術を  
して耳の鼓膜を取り出しました。」私は言いました。「神は鼓膜のつくり方を忘れては  
いませんよ。」私は彼女に油を塗って祈りました。鼓膜がもとどおりになるように主に  
求めました。彼女は完全に耳が聞こえなかったので、大砲の音も聞こえなかっただろ  
うと思います。祈ったあとでも、彼女はまだまったく耳が聞こえないままでした。しか  
し、ほかの人々が癒され、喜んでいるのを彼女は見ました。神はご自分が恵み深い方  
であることをお忘れになったのでしょうか。神の力は今でも同じでしょうか。彼女は次  
の夜に来て言いました。「私は神を信じるために今夜来ました。」ほかのどんな目的で  
も来ることのないようご注意ください。私はもう一度彼女のために祈り、イエスの御  
名によって彼女の耳が解かれるように命じました。彼女は信じました。彼女が耳が聞  
こえると信じた瞬間、走って椅子の上に飛び乗って、福音を語り始めました。のちに私  
はピンを落として、彼女がその落ちる音を聞けるようになったのを確認しました。神は  
耳に鼓膜を創造することがおできになります。神にはあらゆることが可能です。神は最  
悪の人を救われます。

失意のうちにある方よ、あなたの重荷を主に委ねてください。主はあなたを励まし  
ます。主を見つめ、光で照らされてください。今、主を見つめてください。

## (四) パウロのペンテコステ

聖書朗読 使徒の働き九章一節から二十二節

サウロは初期のクリスチャンたちにとっておそらく最大の迫害者でした。「サウロは教会を荒らし、家々に入って、男も女も引きずり出し、次々に牢に入れた」(使徒八・三)とあります。この時点で、彼は「主の弟子たちに対する脅かしと殺害の意に燃えて」(一節)いたことが分かります。彼は教会を破壊する目的をもってダマスコに行く途中でした。神はそういう者をどのように取り扱われたのでしょうか。私たちがそこにいたら彼を裁きの心で取り扱ったに違いありません。神は彼をあわれみをもって取り扱われました。ああ、神の驚くほどの愛！神はダマスコの聖徒たちを愛してくださいました。神が彼らを守られた方法は、彼らを追い散らし破壊しようとする男を救うことでした。私たちの神はあわれむことを喜びとされ、神の恵みを罪人にも聖徒にも日々快く与えてくださいます。神はすべての人にあわれみを示されます。私たちがそのことを認識しさえすれば、私たちの神の恵みを通して今日を生きるというシンプルな生き方になります。

私が毎日いのちを保たれているのは、神の恵みによるのだと、ますます私は実感しています。私たちが悔い改めに導かれるのは、神の素晴らしさを認識するときなのです。ここでパウロは、大祭司からの手紙を持って、ダマスコに急いでいました。彼は地面に倒され、光に照らされて幻を見ました。その光は太陽よりもまぶしいものでした。彼がものも言えずに地面に伏していると、彼に話しかける声が聞こえました。「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか」(四節)。彼は答えました。「主よ。あなたはどなたですか」(五節)。するとお答えが返ってきました。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである」(五節)。それで彼は叫びました。「主よ、あなたは私に何をさせようとなさるのですか。」サウロと一緒にいた人々は啞然としていました——ものも言えない状態でした——が、彼をダマスコに連れて行きました。

神のみこころを知りうるのは聖職者だけだという考えを持っている人々がいます。しかし、主が用意しておられたダマスコの弟子は、舞台裏の男でしたが、神が語りかけることのできる場所に住んでいました。彼の耳は開かれていました。彼は天から来るものを聞き入れた人でした。ああ、これは、あなたが地上で聞けるどんなものとも比べ

ものにならないほど驚異的です。主が幻のなかで現れてくださったのは、この男に対してでした。主は彼に、『まっすぐ』という街路に行き、サウロを尋ねるように命じました。また主は彼に、サウロが幻のなかで「アナニヤという者が入って来て、自分の上手を置くと、目が再び見えるようになる」(一二節)のを見たと教えました。アナニヤは抵抗しました。「主よ。私は多くの人びとから、この人がエルサレムで、あなたの聖徒たちにどんなにひどいことをしたかを聞きました。彼はここでも、あなたの御名を呼ぶ者たちをみな捕縛する権限を、祭司長たちから授けられているのです。」(一三～一四節)けれども、主はアナニヤに、サウロが選びの器であることを請け合いました。アナニヤは疑いをはさまず、あわれみの務めに向かいました。

主はパウロに関して「見よ、彼は祈っている」とアナニヤに告げました。悔い改めの祈りは天において必ず聞かれています。主は、砕かれ悔いた心を決して拒まれません。そしてサウロに、すぐにも現実になる幻を与えられました。その幻とは、アナニヤが来て彼のために祈り、彼の目が見えるようになることでした。

ある日、私がベルファストの町に滞在中、手紙に目を通していたときのことです。ある男性が私のところに来ておもむろに切り出しました。「あなたは病人を訪問するのですか。」彼は、ある家に行ってほしいと私に頼みました。その家に行けば、ひどい病気に罹った女性がいるとのことでした。私はその家に行き、ぐったりとベッドでもたれかかっている女性に会いました。彼女は人間的に言えば完全にお手上げだと分かりました。彼女の呼吸は短く、か細く、一息ひといきがもう最後の呼吸であるかのようでした。私は主に叫びました。「主よ、私に何をすべきか教えてください。」主は私におっしゃいました。「イザヤ書五十三章を読みなさい。」私は自分の聖書を開いて言われたとおりにしました。この章の五節までを読むと、まったく前触れなく、女性が大声を上げました。「私は癒されています！ 私は癒されています！」このとつぜんの叫び声に私は驚き、何が起こったのかを教えてくださいよう彼女にお願いしました。彼女はこう話してくれました。「二週間前、家を掃除していると、心臓にひどく締め付けられるような痛みがありました。ふたりの医者が診察してくれましたが、どちらにも手遅れだと言われました。でも、昨日の夜、主が私に幻を見せてくださいました。あなたがこの寝室に来て、祈っているのが見えました。あなたがご自分の聖書を取り出して五十三章を開くのが見えました。五節まで進んで『彼の打ち傷によって、私たちは癒された』とあな

たが読み上げると、私が奇跡的に癒されるのが見えました。そういう幻でした。今、それが事実になったのです。」

幻がいまでも終わっていないことを、私は神に心底、感謝しています。聖霊が幻をお与えになることができるので、この終わりの日にあつて私たちは幻を期待できます。神は罪人の死を喜ばれないので、罪人を救うためにあらゆる手段を講じられます。ああ、なんという愛の福音でしょうか！

アナニヤは「まっすぐ」という街路にある家に行き、以前は神の冒涇者であり迫害者であった者に手を置いて、言いました。「兄弟サウロ。あなたの来る途中、あなたに現れた主イエスが、私を遣わされました。あなたが再び見えるようになり、聖霊に満たされるためです。」(一七節)主はサウロの肉体的な状態をお忘れにはならず、彼のために癒しが準備されていました。しかし、癒し以上のものがありました。それは聖霊の満たしです。ああ、私たちが聖霊のバプテスマというこの驚くべき真理を見落とすとき、福音にある神の栄光が奪われてしまっているように、いつも私には思われます。救われることは確かに素晴らしい。新しい被造物になること、死からいのちに移されること、神によって生まれたという聖霊の証しを持つこと、すべてこれらは言い表しがたいほど尊いのです。けれども、救いの湧き出る泉を得る一方で、私たちの内側から生ける水が川となって流れ出る場所に達することも私たちには必要です。

神はサウロを選ばれました。彼は何者だったのでしょうか。冒涇者です。迫害者です。その選びは恵みにほかなりません。私たちの神は恵み深く、神はその恵みを人々のなかで最も邪悪なならず者に示すことを喜ばれます。私の住んでいた町に、町一番のならず者として知られていた、目を引く人物がいました。彼はあまりに邪悪で、身の毛のよだつ言葉を吐き散らしていたので、悪党でさえ耐えられないほどでした。イギリスでは、死刑の執行を担当する死刑執行人という公務がありました。このならず者はその公務に就いていました。のちに彼が私に話したところによると、彼が殺人犯の死刑を執行するとき、死刑囚のなかに働く悪魔の力が彼のなかに入り、その結果、彼は悪魔の群れにとりつかれていました。彼の人生は耐えがたいほどみじめで、もう人生を終わらせようとしていました。彼はある駅に行って切符を買いました。イギリスの電車はアメリカの電車とはずいぶん違います。それぞれの車両にはいくつもの小さな仕

切り客室があって、自殺をしようとする者が簡単に客室のドアを開けて電車の外に身投げできるようにつくりになっています。この男は、あるトンネルで対向列車とすれ違う直前に電車から身投げしようとしていました。それが自分の人生を終わらせるてっとり早い方法だと考えたのでした。

その夜、駅には昨晚救われたばかりの若者がいました。彼はほかの人々を救いに導こうと心が燃えており、これからの人生を毎日、誰かを救いに導くために生きていこうと心に決めていました。若者はこの傷心の処刑人を見て、彼のたましいについて話し始めました。処刑人は私たちの伝道所に連れて来られました。そこで彼は力強い罪の自覚に導かれました。二時間半ものあいだ、彼は文字通り罪の確信の下で汗びっしょりになり、彼から湯気が上がっているのが見えました。二時間半ののちに、恵みによって彼は救われました。

私は「主よ、何をすべきか教えてください」と言いました。主は「彼を離れてはいけない。一緒に帰りなさい」とおっしゃいました。私は彼の家に行きました。彼は妻に会うなり、「神が俺を救った」と言いました。妻は泣き崩れ、そのまま恵みによって救われました。特に私がお伝えしたい点は、その家で変化があったということです。猫でさえ、その変化に気づいたでしょう。

その家にはふたりの息子がいて、ひとりが母親に言いました。「お母さん、この家に何が起きたの。こんなことは今までなかった。すごく平和だね。何があったの。」母親は息子に言いました。「お父さんが救われたのよ。」もうひとりの息子も同じく心打たれていました。私がこの男をいろいろな特別礼拝に連れて行くと、神の力が彼の上に何日も働きました。彼は証しをしていましたが、だんだんと恵みにおいて成長するにつれて、福音を宣べ伝えたいと願うようになりました。

彼は宣教者になり、その働きを通して何百人もの人々が主イエス・キリストの救いに関する知識を与えられました。最も邪悪な者にとっても、神の恵みは十分です。神は最悪のならず者を導き出して、神の恵みを示す好例とすることがおできになります。神はこのことをタルソ人サウロに行なわれました。彼が主の弟子たちに対する脅かしと殺害の意に燃えている真っ最中にです。神はそのことをベリーの処刑人に行なわれました。神は私たちの叫びに答えて、その百倍ものことをしてくださいませ。

お気づきかと思いますが、アナニヤがその家に入ったとき、かつて福音の敵であった者を「兄弟サウロ」と呼びました。主イエス・キリストはアナニヤをその家に遣わし、この新しく救われた兄弟に手を置かせました。それは、サウロの目が見えるようになり、また聖霊に満たされるためでした。「でも、彼が異言を話したとは書いていません」と言う方がおられるかもしれませんが。私たちはパウロが間違いなく異言を話したことを知っています。彼はすべてのコリントの信徒たちよりも多く異言を話しました（第一コリント一四・一八）。草創期だった当時、ペンテコステの聖霊降臨からまだ日が浅かったので、ペンテコステの日に聖霊のバプテスマを受けた最初のパターンに従ってそれを受けるのであれば、バプテスマを受けてもだれも満足しませんでした。ペテロがカイザリア地方のコルネリオの家で起きた出来事について証言しているとき、ペテロはこう言いました。「そこで私が話し始めていると、聖霊が、あの最初るとき私たちにお下りになったと同じように、彼らの上にもお下りになったのです。」（使徒一一・一五）あとになって彼はこの事件についてこう言いました。「人の心を知っておられる神は、私たちに与えられたと同じように、異邦人にも聖霊を与えて、彼らのためにあかしをし、私たちと彼らとに何の差別もつけず、彼らの心を信仰によってきよめてくださったのです。」（使徒一五・八～九）コルネリオの家族に起きた出来事についての説明から私たちが知るのには、聖霊が下ったとき「彼らが異言を話し、神を賛美するのを聞いた」（使徒一〇・四六）ということです。多くの人は、私たちと使徒の時代の人々とのあいだに神ご自身が区別を設けたと考えます。けれども、これを示す聖句はありません。聖霊の賜物を受ける人はだれでも、その人が今日にした経験とペンテコステの日に与えられた経験とのあいだに、何の区別もないことがわかるでしょう。サウロが聖霊に満たされたとき、主がパウロに与えた経験と、少し前にペテロたちに与えた経験とを違うものになさったとは、私には信じられません。

三十一年ほど前のことです。ある男が来て言いました。「ウィグルスワースさん、サンダーランドで何が起きているかご存知ですか。人々が聖霊のバプテスマを受けています。ペンテコステの日に弟子たちが受けたのとまったく同じ方法です。」私は「そこに行きたいです」と言いました。私はすぐに電車で飛び乗ってサンダーランドに行きました。集会に着くと「異言で話すのを聞きたいです」と言いました。「聖霊のバプテスマを受ければ異言で話すようになりますよ」と言われたので、私は「聖霊のバプテス

マならもう受けましたよ」と言い返しました。ある男性が「兄弟。私はバプテスマを受けたときに異言を話しましたよ」と言うと、私は「じゃあ聞かせてください」とたてつきました。彼は自在に異言を話すことはできず、御霊が話させてくださるときにだけ異言を語ることができたので、私の好奇心は満たされませんでした。

この人たちが非常に熱心なのを見て、私はいよいよ異言を聞きたくてたまらなくなりました。この新しい御霊の現れを見たくてやっきになっていたのも、四六時中質問していて、集会の邪魔ばかりしていました。ある男性が来て言いました。「私は宣教師です。聖霊のバプテスマを探してここに来ました。私は主を待ち望んでいるのですが、あなたがここに来てから質問攻めで何もかも台無しにしています。」私は彼と議論し始めました。そして私たちの愛があまりに白熱したので、帰るときには彼と私は道の互いに反対側を歩きました。

その夜、待望集会が予定されていて、私は参加するつもりでした。私は着替えたときに脱いだ服のなかに鍵を入れっぱなしにしました。夜中に集会から帰ってきてから鍵を身につけていないことに気づき、この宣教師の兄弟が言いました。「私のところに来て一緒に寝るしかないね。」でも、いかがでしょうか、私たちがその夜、眠れたと思いますか。いいえ、とんでもない。夜通し祈って過ごしました。私たちは上よりの尊い雨を受けました。朝食のベルが鳴っても、私にはそれがどうでもよくなっていました。四日間、私は神以外に何も欲しませんでした。もしあなたが三位一体の第三位格により満たされるという言葉にならないほど素晴らしい祝福を知りさえすれば、この満たしを待ち望んでほかのすべてを傍に置くことでしょう。

私はサンダーランドをまもなく去ろうとしていました。このリバイバルは英国国教会の祈禱会堂で起きていました。その日、私は別れのあいさつをしようと牧師館に行つて、牧師夫人のボディ姉妹に話しました。「もう、おいとまいたしますが、まだ私は異言を受けていません。」

彼女は言いました。「あなたに必要なのは異言ではなくて、バプテスマです。」私は言い返しました。「姉妹、私はバプテスマを受けましたよ。でも私が帰る前に、あなたに手を置いていただきたいのです。」彼女は私の上に手を置き、それから部屋を出なければなりません。炎が下りました。私がそこでただ神とだけ過ごす素晴らしい時

間を持ちました。神が私を御力のなかに沈めてくださっているように感じました。私は素晴らしい幻を与えられました。尊い血によって私がきよめられているのがわかって、「きよい！ きよい！ きよい！」と叫びました。きよめられているという喜びに満たされました。私は主イエス・キリストを見ました。からの十字架と、キリストが父なる神の右に引き上げられているのを見ました。キリストをあげ、ほめたたえ、賛美していると、私は御霊の話させてくださるとおりに異言を語っていました。私は今や本当の聖霊のバプテスマを受けたことを知りました。

私は家に電報を打ちました。家に帰ると、息子の一人が言いました。「お父さん、異言を話すようになったんだってね。さあ聞かせて。」異言はその場で話せませんでした。バプテスマを受けた瞬間は、聖霊に話させてくださるとおりに異言が出てきましたが、異言の賜物を受けたわけではなかったのです。そこでは一言も出ませんでした。九ヶ月後まで、ふたたび異言を話すことはありませんでした。九ヶ月後にほかの人のために祈っているときに、神が私に恒久的な異言の賜物をくださいました。

さて、サウロが聖霊に満たされてから、使徒の働きの中のこの満たしの結果を見ることができます。ああ、なんという違いを生んだことでしょうか。家に帰ると、妻が私に言いました。「ねえ、あなたは聖霊のバプテスマを受けたと思っているんですね。でも、私もあなたと同じくらい聖霊によってバプテスマを受けていますよ。」私たち夫婦は二十年間、一緒に講壇のところに座ってきましたが、その夜、妻は「今夜はひとりで行ってね」と言いました。私は「わかった」と言いました。その夜、私が講壇のところにのぼると、主は私にイザヤ書六十一章の最初の節を示されました。

「神である主の霊がわたしの上にある。  
主はわたしに油をそそぎ、  
貧しい者に良い知らせを伝え、  
心の傷ついた者をいやすために、  
わたしを遣わされた。  
捕らわれ人には解放を、  
囚人には釈放を告げ」

妻は会場のいちばん隅の席に行って「どうなるか見てみよう」とつぶやきました。私



の説教は主が私に与えてくださったことを主題にして、主が私にどんなことをしてくださったかを話しました。私はこれからの人生に神を歓迎して生き、私に与えられたこの満たしを失うくらいなら、死の苦しみを千回でも喜んで受ける、と会衆に話しました。妻は落ち着きを失っていました。彼女は新しい方法で動かされ、「説教しているあの人は私のスミスではないわ。主よ、あなたが彼のために何かをしてくださったのですね」と言いました。私の説教が終わるやいなや、宣教団の秘書が立ち上がって言いました。「兄弟、私たちの宣教団のリーダーが受けたものを私もいただきたいです。」彼は座ろうとしましたが、椅子に腰掛けられずに床に倒れてしまいました。すぐにつづいて十四人もの人々が床に倒れました。私の妻も倒れました。私たちは何をすればいいか知りませんでした。聖霊がこの状況を取り扱ってくださったので、火が下りました。リバイバルが始まり、群衆が押しかけてきました。これは祝福の洪水が押し寄せる前触れにすぎませんでした。私たちは主のいのちと力の貯水池にふれました。そのときから主は私をさまざまな土地に連れて行かれ、私は神の聖霊がそそいでくださった多くの祝福を証ししてきました。

迫害者サウロに与えられた神の恵みは、あなたが受けられるものです。サウロが受けたのと同じ聖霊の満たしも、おなじくあなたが受けられるものです。ペンテコステの日に弟子たちが受けたバプテスマに届かない経験で満足して立ち止まらないでください。祝福に満ちた神の御霊をいやましに受け続ける人生へと歩み出してください。

## (五) あなたがたは力を受けます

「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。」(使徒一・八)

弟子たちは、今こそイスラエルの王国を再興してくださるのでしょうか、と主に尋ねたところでした。キリストの答えは、父がご自分の力によってお定めになった時がいつなのか、どんなときなのかは弟子たちが知らなくてよいというものでした。けれども、弟子たちが聖霊を受けるとき、彼らが世界中でキリストを証しするための力を受けるようになると、キリストは約束されました。聖霊を受けるとは神と共にある力を受けること、人々と共にある力を受けることです。

神からの力があり、サタンからの力があります。聖霊が下ったはじめの頃、私たちの集会に多くのスピリチュアリストが来ました。彼らの考えによると、彼らの受けたのと同じようなものを私たちが受けたのでした。それで彼らは有意義な時間を過ごそうともくろんで来ていました。彼らは私たちの集会で前の二列を埋めていました。神の力が下ったとき、このまがい者たちは悪魔の力のもとで何かをつぶやきながら震え始めました。主の御霊が私の上に力強く臨み、私は大声で言いました。「さあ、悪魔ども、ここから出て行け！」すると彼らは出て行きました。私が彼らの後を追って道路まで行くと、彼らは振り向いて私を呪いました。下から何か力が来ましたが、聖霊の力とは勝負になりませんでした。彼らはすぐに逃げ帰らなければなりませんでした。

主は、救われたすべての人々が上よりの御力を受けることを望んでおられます。その御力とは、証しする力、行動する力、生きる力、内側におられる神の神聖な現れを人々の前で見せる力です。神の力は、あなたを自分なりの計画から神のご計画に移します。あなた自身に出自のあるものがあなたからはぎ取られ脱がされて、神の秩序にあなたは入れられます。主はあなたを変えて、あなたの心のある場所に神の心を入れます。そうしてあなたがキリストの心を持つことができるようになります。あなたが自分自身の計画に従って仕事をするのではなく、神があなたのなかで働き、あなたを通して働くようになります。神の働きが、内側におられる御霊の力を通して、神ご自身の良き喜びを全うします。あなたの「自分」をノックアウトするまではあなたはむなしい、と言った人がいました。キリストに内側から支配していただくなくてはなりません。聖霊

にあるいのちとは、良い、神に受け入れられる、完全なみこころを行うための道を作るために、たえずあなた自身の意志を内なる神のみこころに従わせることです。

前にロンドンで集会をしていたとき、閉会に際し男性が来て言いました。「この会場で十一時以降に集会を持つことは許可されていません。それであなたに私たちと一緒に家に来ていただきたいのです。私はとても神に飢え渴いています。」彼の妻も、神に飢え渴いていると言いました。だから私は彼らと一緒に行くことにしました。十二時半ごろに彼らの家に着きました。男性は火を起し始めて、「さあ、おいしい夕食を食べましょう」と言いました。私はふたりに言いました。「私が来たのはあなたが暖かい火や、夕食や、眠りを得るためではありません。私は、あなたが神からもっと多くのものをいただくことに飢えていると思ったから来ました。」私たちはひざまずいて祈りました。三時半ごろに主は彼の妻にバプテスマを授け、彼女は御霊の話させてくださるとおりに異言を語りました。五時ごろに私は夫に話しかけて、何かありましたかと尋ねました。彼は「鉄のようにかたくなな私の意志を神が砕いてくださいました。」彼はまだバプテスマを受けていませんでしたが、神が彼の内側で力強く働いておられました。

次の日、彼の職場で周りの誰もが、彼に起きた偉大な変化に気づくことができました。以前の彼は、歩く恐怖でした。彼の下で働く人たちは、彼の行いのさまから、彼のことをまったく悪魔のように見なしていました。しかし、その夜に神の力に触れてからというもの、彼は完全に変えられました。以前から彼は宗教的な告白をしていましたが、本当の意味での新生はその晩まで経験していませんでした。その晩に、神の力が彼の家に力強く流れ込んだとき、新生経験に入りました。数日経ってから、私はこの男性の家に行きました。すると二人の息子が私にかけ寄って、「僕たちは新しいお父さんを得ました」と言いながらキスしました。こうなる前、息子たちはよくお母さんに「お母さん、もうこの家に我慢できないよ。僕たちが出て行かなくちゃ」とこぼしていました。ところが、私たちが一緒に祈った夜に、主は状況全体を変えてくださいました。二度目に訪問したとき主はこの男性に聖霊のバプテスマを授けました。聖霊は偽りの状況を明らかにし、嘘による隠れ場の覆いを取りのけ、偽りの状況を完全に片付け取り除きます。聖霊が内側に入られたとき、その男の家も仕事も男自身も百八十度変わりました。

聖霊が入って来られると、あなたは力ある証人になるよう励ましを受けます。あるとき私たちは特別な集会を開く予定になっていて、外でチラシを配布していました。私が靴を作る店に入ると、緑色のサングラスをかけて、さらに緑色の布でサングラスを覆っている人がいました。私の心は主を見上げていました。神が何か状況を変える用意ができているという内なる証しを私は持っていました。その男は叫びました。「ああ！ああ！ああ！」私は「何があったのですか」と聞きました。彼はひどい炎症とやけどで苦しんでいると言いました。私は「イエスの御名によってこの状況を叱る」と言いました。瞬間的に主が彼を癒しました。彼はサングラスと布を取って言いました。「見てください。すっかり良くなりました。」

あるとき、ある婦人から、私に来て助けてもらえませんかとお手紙をいただきました。彼女が言うには、彼女は盲目で、目の後ろに二つの血の塊がありました。私が家に着くと婦人が人に手を引かれて来ました。しばらくのあいだ一緒にいると、神の力が下りました。彼女は窓の方に走って行き、驚きました。「見えます！ ああ、見えます！血の塊がなくなりました。見えます！」婦人はそのあと聖霊を受けることを求めるようになり、十年間私たちの教派の戦ってきたことを告白しました。彼女は言いました。「私にはこの異言というものが耐えられませんでした。でも、神が今日すべてを解決してくださいました。いま私は聖霊のバプテスマを求めています。」恵み深い主は御霊のバプテスマを彼女に与えてくださいました。

聖霊が来られるのは人がきよめられたときです。古い生活が取り除かれなければなりません。内側がきよめられていないにもかかわらず聖霊のバプテスマを受けた人は、これまで一人も見ることがありません。

あるとき集会で、バプテスマを求めている男性がいたのを覚えています。彼は何か問題を抱えているようでした。そわそわしていて、やっと私に話しかけました。「行かねばなりません。」私は「どうしたんですか」と言いました。彼はこう言いました。「神が私に隠れた事柄を明らかにされました。それで私は打ちひしがれています。」私は言いました。「間違いをすべて悔い改めてください。」彼は待ち望み続け、主が彼の心を探り続けてくださいました。御霊に満たされることを求めて人が神を待ち望むこの時間は、神にとってはその人の心を探り、ご支配を取り戻そうとする時間です。あとになっ

てその男性が私に言いました。「私にはしなければならない難しいことがあります。今までにしたことのない最も難しいことです。」私は彼に言いました。「あなたのしようとすることを主に話してください。結果を絶対に思い悩まないでください。」彼は同意しました。翌朝、彼はお金を詰めたバッグを持って、彼が会わなければならない人たちのところへ三十マイルの道を行きました。この人は百頭もの牛を飼っていて、餌のある場所で購入していました。毎回決まった期日に請求金額を払っていましたが、ある日、ミスがありました。彼はいつも期日通りに請求の支払いをしていたので、彼の牧場の人たちがあとで帳簿を確認したとき、お金の面で彼は信用できるから自分たちのほうがミスしたに違いないと思って、彼に領収書を送りました。その男性は支払いを逃れる意図はゆめゆめありませんでした。しかし、正しいことをするのを引き延ばしにすると、悪魔がそれをするチャンスを失うようにけしかけてくるものです。その男性が主を求めたその夜に、主はこの点で彼を取り扱ってくださいました。彼は翌朝、ものごとをまっすぐに直しに行かなければなりません。彼がきちんと支払いをすると、主は彼に御霊でバプテスマを授けてくださいました。主の器にふさわしい者は、きよめられ、聖でなければなりません。

聖霊が来られるときにはいつもキリストの豊かな啓示を与えます。キリストの存在があなたのなかで現実のものとなるので、御霊の力の下であなたが神への愛と賛美を言い表し始めるとき、知らず知らずのうちに自分が異言を話していることに気づきます。ああ、素晴らしいことです！

以前、私は、異言が伴わない聖霊のバプテスマというものを受けたと信じる人たちのグループに所属していました。そういう人たちは今日でもたくさんいます。彼らと祈り会に行く機会があれば分かりますが、彼らは聖霊によってバプテスマを受けることを何度も繰り返し主に求めています。もし彼らが本当に聖霊のバプテスマを受けたのなら、どうしてそんなにも求めるのでしょうか。聖書にもともと書いてあるパターンで聖霊のバプテスマを受けた人が、主に聖霊をくださいと求めるのを私は聞いたことがありません。彼らは主が来られたことの確実さを知っています。

私が前にベルギーからイギリスに旅行していたときのことです。イギリスに上陸すると、ハーウィッチとコルチェスターの間にある場所で止まってほしいという要望をもら

いました。その人々は神が私を送ってくださったと言って非常に喜び、特別に祈ってもらいたいことがあると言いました。「主を信じる兄弟がここにいるのですが、腰から下が麻痺しています。自分の足で立つことができない状態が二十年も続いています。」私はこの男性のもとに案内されました。彼が椅子に座っているのを見ると、ひとつ質問を彼にしました。「あなたの心にある最大の望みは何ですか。」彼は「ああ、私は何よりもただ聖霊を受けたいです!」と答えました。私はその答えにいくらか驚きましたが、両手を彼の頭に置いて、言いました。「聖霊を受けなさい。」瞬間的に神の力が彼に下り、彼の呼吸が非常に深くなり始めました。彼は椅子からどさっと落ち、その場でじゃがいもの袋のように倒れました。文字通りピクリとも動きません。私は神のなさることが好きです。神が働いておられるのを見たいです。その場所で彼のずんぐりむっくりした体の上で、頭が回転台に載っているように回っていました。それから、喜ばしいことに、彼は異言を話し始めました。私は目をこらして彼を見守り、彼の足の状態を見て言いました。「この足ではこんなに大きな体を支えられない。」それから天を見上げて言いました。「主よ。何をすべきか教えてください。」聖霊はイエス・キリストと父なる神のみこころの行政官です。

神のみこころをあなたが知りたいなら、あなたに対する神の現在のお考えを聖霊に知らせていただき、いま何をすべきかを教えていただかなければなりません。主は私に言われました。「わたしの名によって、彼に歩くように命じなさい。」でも、私はそれをしませんでした。当然です。私はそこにいる人たちに言いました。「彼を持ち上げられるかどうか試してみましょう。」彼は持ち上がりませんでした。一トンもの体重があるかのような重さでした。私は叫びました。「ああ主よ、お赦してください。」間違いをおかしたことを悔い改めると、主は再び私に言われました。「彼に歩くように命じなさい。」私は彼に「イエスの御名によって立ち上がりなさい」と言いました。彼の足は直ちに強められました。彼は歩いたのでしょうか。彼は走り回ったのです。一ヶ月経つと、彼は十マイルの道を徒歩で往復するまでになりました。彼は現在、ペンテコステ運動の働きをしています。聖霊の力が現れるとき、事が起こります。

## (六) 幻を保て

使徒の働き二十章をお読みください。七節から始めましょう。人間はどこにいても失敗するものです。けれども、人間が神の力で満たされるとき、失敗などというものはなくなります。聖霊のバプテスマが失敗ではないことを私たちは知っています。

このバプテスマには二つの側面があります。第一に、あなたが聖霊を所有するということです。第二に、聖霊があなたを所有するということです。これが今回のメッセージです。すなわち、バプテスマを授ける方が私を所有してくださること、そしてそれは私がバプテスマを授ける方を所有する以上の意味があるのだということです。そのいのちの所有には可能性の限界がありません。なぜなら、神ご自身がそのいのちの背後におられ、そのいのちの真ん中におられ、そのいのちを通しておられるからです。ときどき私が見るのは、人々の活気がなく、冷たく、無関心な姿です。しかし彼らが聖霊に満たされたあとでは、神に対して激しい情熱を燃やすようになります。神の働き人は燃えさかる炎にならなければならないと私は信じています。炎になり、力強い道具にならなければならないなりません。燃えさかるメッセージと、愛に満ちた心と、聖別された体を携えていなければならないなりません。そうなるなら、神が私たちの全身を御力で十分に満たして下さって、主の栄光の現れだけが存在するようになります。確かに、これこそが人間の救いに関わるこの偉大なご計画の理想と目的なのです。私たちが神の満ち満ちたさまにまで満たされ、いのちの働き人になり、神が人間を救う御力によって私たちのうちに、また私たちを通じて力強く働いて、恵みを現してくださるということです。

さあ、この素晴らしい神のことばに戻りましょう。私がお見せしたいのは、このパウロという男のうちにあった御力の現れです。この男は「月足らずで生まれた者」(第一コリント一五・八)でした。このパウロは火の中からたいまつとして引き抜かれた者です。このパウロは神が異邦人への使徒として選んだ者です。ご覧ください。はじめの頃、彼は迫害者として、喜ばしい知らせを人々に宣べ伝えている者たちを熱心に破壊していたということ。ご覧ください。彼がどれほど熱心に彼らを牢屋に投げ入れ、彼らに強いて聖なる御名を汚す言葉を言わせようとしたかを。ご覧ください。この同一人物がそのあと神の力とキリストの福音によって変えられたことを。そして、彼が聖霊に満

たされ、神の建築者になり、神の御子の宣伝者になったことを。彼は「もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです」(ガラテヤ二・二〇)とさえ言ったのです。

使徒の働き九章を読むと、彼が特別な働きに召されたことが分かります。主がアナニヤに言われました。「彼がわたしの名のために、どんなに苦しまなければならないかを、わたしは彼に示すつもりです。」(使徒九・一六)この聖句が病気で苦しむことを意味しているとは思っていただきたくありません。と申しますのも、この聖句は迫害に苦しめられ、誹謗中傷に苦しめられ、内紛に、敵意に、悪口に、ほかのいろいろなわざわいに苦しめられることを意味するからです。しかし、それらがあなたを害することはありません。むしろそれらは聖なる志に火をつけます。聖書が言うとおりです。「義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。」(マタイ五・一〇)キリストのために迫害を受けることは、祝福された人々にあなたの名が連ねられることですが、それだけでなくもっと良いことに、キリストの苦しみにあずかるという主イエス・キリストとの最も親密な交わりによって、キリストと一つになることを意味します。私たちがキリストの御名のゆえに苦しみを受けるという特権にあずかったことを喜びおどる日がやがて来ます。

愛する皆さん、神は証しを求めておられます。真理の証し、十全な真理の証し、贖いの十全さの証し——罪からの解放と病気からの解放——を求めておられます。人々が聖霊によるいのちに満たされるにつれて、彼らのなかに働く永遠の力によって、その証しが現されます。神は私たちがそのような働き人になれることを信じてほしいと願っていらっしゃる。聖霊によって私たちのうちに神の栄光がまっとうされるのです。

七節を見てください。パウロがいかに主の働きに情熱を傾け夢中になっていたか。「夜中まで語り続けた」のです。そのとき、集まりを中止する恐れのある出来事が起こりました。若い男が、眠気のあまり、窓から落ちたのです。普通の集会なら閉会に追い込まれて当然でした。しかし、御霊に満たされたこの人は、こういう緊急事態にあつてさえ、この瞬間に立ち会ってさえ、平然としていました。彼は降りてきて、若者を抱きかかえ、彼のうちにあるいのちの御霊によって若者のいのちを呼び戻し、それから上の



階に戻って明け方まで集まりを続けました。

スイスで、人々が私に言いました。「私たちに話してくださる時間はどれくらいの長さですか。」私は答えました。「聖霊が私たちの上におられるなら、永遠に語るができます！」私がサンフランシスコにいたとき、ある日メインストリートを車で走っていると、道の脇に人だかりができていました。運転手が停めたので私は車から飛び降り、まっすぐ騒ぎの真ん中に行くと、見るからに死にかけている少年が倒れているを見つけました。私はかがんで尋ねました。「どこが具合が悪いのですか。」彼は消え入るように「歩けません」と答えました。私は手を彼の背中の方下に置いて「イエスの御名で出て行け」と言いました。すると男の子は飛び上がって駆け出し、立ち止まって「ありがとう」とさえ言わずに去って行きました。

ですから、お分りいただけるでしょうが、聖霊のバプテスマを受けていれば、あなたが考える暇のないときにも行動できる領域に入ります。聖霊の力と働きは神に起源があります。それは超自然的で、神ご自身が震わせ、動かすもので、全能の力と権威が伴うものです。ほかの方法では解決できなかった事を解決します。

私は海を渡っているときに、船の上でこの人物の体験したいいくつかのことを体験しました。私はパウロの領域に達したいとずっと願っています。どんなときにも、真夜中でも、何に直面しても、死そのものに直面しても、神がご自分の力を現すことができになり、私を通して神が望まれることを行なってくださいという領域です。これが、神の御霊に所有されることの意味です。私の心はパウロがいた場所に入るという可能性によって震えています。十九節を読みましょう。神が私たちに与えてくださったこの祝福された真理によって、私たちの心に完全な励ましを受けることでしょう。

「謙遜の限りを尽くして主に仕えました。」私たちのうちで一人たりとも、謙遜を無視したままで、御霊の油注ぎと力をいただいてこの新しい約束の契約に仕える働き人になることはできません。私にとって、高く上げられるための道は低くへりくだることのように思えます。私にとって、はっきりしているのは、私が主の死をこの身に帯びれば帯びるほど、主のいのちが私のうちにあふれるということです。そして私にとって、じつに聖霊のバプテスマは到達点ではなく、より高みに達し、より聖なる領域に達するための御力の流入です。神の力によるなら、人間の性質がそこに達することは可能な

のです。聖霊のバプテスマが与えられるのは、キリストを啓示し、キリストを現実のものとするためです。この方のうちに「神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。」(コロサイ二・九)ですから、私の理解では、聖霊のバプテスマを受けることは、死のなかに、いのちのなかに、御力のなかに、三位一体の交わりのなかに浸されることを意味しています。そこにおいて、古いのちは消え去り、神のいのちが永遠に私たちを所有します。

神を見たあとで人が生きることはできません。そして私たちが神をその栄光に満ちた無限なる充満のうちに見て、私たちが喜びをもっていのちを終えるようになることを神は望んでおられます。そうして神ご自身が私たちのいのちとなってくださるのです。それだからパウロはこう言えました。「もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きています。」神は私たちがこの謙遜の模範を現実のものとするよう願っておられます。その模範において、私たちは人間の無力さと人間の不足をはっきりと認識することができます。そうなれば、もはや私たちは人間の計画、人間の方策、人間の力を頼みにすることはなくなり、ひたすら神だけを見つめ、神のみこころ、神の御声、神の力の、いっさいのもののなかにいっさいを満たす神の十全さを求めるようになります。

さて、ここでもう一節、私たちのためのみことばがあります。読みましょう。二十二節です。「いま私は、心を縛られて」。人類が神のみこころによって手を取り合いひとつになる可能性はあるのでしょうか。聖句からもう二点の見解を取り上げさせてください。イエスさまは私たちと同じように血と肉をもっておられました。一方では主は天にある権威と力と尊厳を受肉された方でしたが、他方では私たちと同じ肉体を負って、私たち人間の弱さに耐え、罪は犯されませんでした。すべての点で私たちと同じように、試みに会われました。ああ、主は愛しい方！ 完全な救い主！ ああ、私は全世界が聞こえるように「イエスさま」と叫びたいです！ その御名を通じて、救い、いのち、力、解放があります。しかし、愛する皆さん、マルコの福音書一章十二節にはその御体が「御霊に追いやられた」とあるのが読めます。ルカの福音書四章では、御霊に「導かれた」とあります。そして今、この箇所ではパウロは御霊に「縛られて」います。

ああ、なんという神のご謙遜でしょうか。人間を御手でつかみ、ご自分の聖なるご

性質、ご自分の義、ご自分の真理、ご自分の信仰とともに人間を所有してくださる。それゆえ人はこう言えます。「私は御霊に縛られている。私にはほかに道がない。私の唯一の選択肢は神である。私の唯一の望み、私の唯一の志は神のみこころである。私は神に縛られている。」愛する皆さん、これはあり得るのでしょうか。ガラテヤ人への手紙の第一章を見れば、パウロがいかにしてこの祝福の状態へと高められたかを確認できます。エペソ人への手紙第三章を見れば、パウロは自分がすべての聖徒のうちでいちばん小さな者であると思っていたことが確認できます。また、使徒の働き二十六章を見れば、パウロが「私は幻を一度も失っていません、アグリッパ王。私はそれを一度も失っていません」と言っているのが確認できます。さらに、ガラテヤ人への手紙に戻ると、彼は幻を保つために、血肉に相談しなかったことが確認できます。神が彼をつかみ、神が彼を縛り、神が彼を保ちました。しかしながら、私は言わなければなりません。あなたは全能者にあなたを保っていただくという素晴らしい領域に入るべきです。私たちは自分自身を神に委ねるようすべきです。その結果は良いものでしょう。「自分のいのちを救おうと思う者は、それを失い、わたしのために自分のいのちを失う者は、それを救うのです。」(ルカ九・二四)

さて、愛する皆さん、私は人々を得ようと奮闘しています。人々を得ることが私の務めです。あらゆる人に飢え渴きを与えることが私の務めです。人々を喜びや情熱で満たすことが私の務めです。人々を最初の聞き始めたままにとどめてはおかない天からのメッセージが私にはあります。彼らが聖霊に満たされたあとで、必ず何かが起こります。聖霊に満たされた人はもはや普通の人ではありません。人は、キリストの啓示を聞いた最初の段階で神の力に圧倒され、その瞬間から普通でない人になります。しかし、聖霊に満たされるためには、神がその人のなかに住まれ、その人をお使いになり、その人を通じてご自分を現わすことのできる自由な体にならなければなりません。ですから、私は皆さんに訴えます。聖霊を受けた皆さんに訴えます。どんな代価を払ってでも、神にご自分の道を進んでいただけるようにしてください。私は訴えます。神とともに働き続け、キリスト・イエスにあって贖われた者のために用意された、神の無限の目的を永遠にわたって日増しに豊かに実現する場所に入ってください。あなたが神の満ち満ちたさまに満たされるまで。三日間同じ場所に居続けるなら、あなたは幻を失ってしまうことになります。神の子どもは毎日新しい幻を獲得しなければな

りません。神の子どもは毎日より一層、聖霊に動かされなければなりません。神の子どもは天の御力と共にある道に入って、神の御手が彼の上にあることを知らなければなりません。

主は同じイエスさま、まさしく同じイエスさまです。主は巡り歩いて良いわざをなさいました。「神はこの方に聖霊と力を注がれました。このイエスは、神がともにおられたので、巡り歩いて良いわざをなし、また悪魔に制せられているすべての者をいやされました。」(使徒一〇・三八) 愛する皆さん、これこそが神が私たちに相続させるために見せようとしておられる働きではないでしょうか。聖霊の使命は、わたしたちにイエスさまの啓示を与え、神のことばを御子がお話しになった当時と同じように――主ご自身が語っておられるのと同じ新しさ、同じ新鮮さ、同じ御力の働きをもって――私たちを生かすいのちとすることです。花嫁は新郎の声を聞くのをこの上なく喜びます！ ここにあるのは祝福された神のことばです。みことばの全体です。一部分だけではありません。ノー、ノー、ノー！ 私たちはみことばの全体を信じます。私たちのうちにいのちのことばが働く力強さが本当にあるので、私たちは日に日にみことばそのものがいのちを与えるということを実感しています。主の御霊が、みことばで呼吸し、みことばで啓示を与え、みことばで私たちを新たにし、みことば全体に今日もいのちを与えています。アーメン。ですから、私の手のうちに、私の心のうちに、私の思いのうちに、非常に多くの驚くべきわざをすることのできる、数々の約束という祝福された貯水池があります。皆さんのうち幾人かは限定されたイエスさまの啓示しか受けていないために苦しみに会ってきたかもしれませんが、キリストのうちにこそいのちの充満があるのです。

カルフォルニアのオークランドでのことです。大きな劇場で集会をしました。神がその場所を満たしてくださったので、あぶれる人々が出て、ほかの会場でも集会をしなければならませんでした。その集会で救いを求める人々がぞくぞくと集まってきて、自発的にその場所で立ったり座ったりして、救われました。それから、体に癒しを必要としている人々がぞくぞくと集まってきて、信仰を励まされて癒しを受けていきました。癒しを必要とする人のひとは九十五歳の老人でした。彼は三年間苦しんでいました。ここ三週間は流動食しか喉を通らなくなっていました。きわめて悪い容態でした。私は彼を立てせて、祈りました。彼は、自分の体のなかに新しいいのちが吹き込まれたようだ、と言いながら晴れやかな顔で戻っていきました。のちに彼はこう言いました。

「私は九十五歳です。集会に来たとき、胃ガンでひどい痛みに見舞われていました。それがすっかり癒されたので、あれから何でも食べています。痛みもありません。」多くの人たちが同じように癒されました。

（上記の出来事をニュージーランドのウェリントンで話しました。ウェリントンはこの講演をした場所です。そこで左足にリウマチのある婦人が立ち上がりました。彼女のために祈ると、彼女は会場の端から端まで何度も走りました。それから癒された部分の証しをしました。頭痛持ちの若い男性が瞬間的に癒されました。また、肩に痛みのある別の男性も瞬間的に癒されました。）

使徒の働き二章で、聖霊が来られたとき神の力の非常な現れがあり、みことばが聖霊を通して語られると、人々の心が刺され、罪の確信に至るように働いたことが分かります。三章では、ペテロとヨハネが神殿に上って行ったとき、足の不自由な男が美しの門で、御霊の力を通して癒されたことが分かります。また四章では、御霊による奇跡の力が驚くばかりに現れたので、男だけで五千人、さらに女性と子どもも主イエス・キリストを信じる者とされました。愛する皆さん、神がその神聖な力を現すのは、神が私たちと共におられることを証明するためです。いますぐに、この素晴らしい神にあなたの心を開いて、あなたの人生のなかに神をお迎えし、ご自分の無限の愛に動かされた神がキリスト・イエスにあって与えてくださったすべてのものと、ご自分の無限の力をもって神が聖霊を通じて罪人のなかに働きかけてくださるすべてのものによって、新しい自己を受け取ってください。

神から来るこの幻を求めてください。そして幻をあなたの前に保ってください。使徒パウロがエペソの信徒たちに祈った祈りをあなたも祈ってください。エペソ人への手紙一章十七、十八、十九節に記録されています。

「どうか、私たちの主イエス・キリストの神、すなわち栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しによって与えられる望みがどのようなものか、聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか、また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知ることができますように。」

## (七) 現代の祝福

マタイの福音書五章の最初の十二節をご一緒にお読みください。いわゆる「八福の教え」という箇所です。マタイの福音書五章は千年王国で実現する箇所なのだから、現代ではこれらの祝福をいただくことはできない、と言う人もいます。確かに聖霊のバプテスマを受けた人は誰でも、千年王国でいただける祝福の前味わいを本当に得、またそれを待ち望む熱心さを持ち合わせています。しかし、この箇所で主イエスさまは、私たちが今ここで享受できる現代の祝福を説いておられます。

「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。」(三節)これはイエスさまが私たちを導き入れてくださる最も豊かな場所の一つです。貧しい者は天国のあらゆるものに対して権利があります。「彼らのもの」です。これを信じる勇気がありますか。私はあります。信じます。私は自分がとても貧しい者であることを知っています。神の御霊がいのちの支配者、また主権者として入って来られるとき、私たちの内なる貧しさについて神の啓示を与えてくださり、神が一つの目的をもって来られたことを示してください。その目的とは天にある最良のものを地上に賜ること、イエスさまを与えてくださった方がそれだけでなく「惜しまずにすべてのものを私たちに与える」ことです。

ある老夫婦が七十年間、一緒に暮らしてきました。誰かがふたりに言いました。「今日までいくつもの暗雲を見てきたに違いないですね。」ふたりは答えました。「雨はどこから来るのでしょうか。雲がなければ雨は降りません。」聖霊だけが人間の貧しさを悟る場所に導きます。御霊がそうなさるときはいつでも、それだけで終わらず、天の窓を開いて祝福の雨を降らせてくださいます。

しかし、自分自身の霊と聖霊との違いを認識しなければなりません。自分自身の霊は自然の観点に立って何がしかを行うことができます。さめざめと泣いたり、祈ったり、賛美したりすることさえできます。それでも、すべては人間の水準で行っているにすぎません。私たちは自分自身の人間的な考え、行動、人格に頼ってはなりません。バプテスマがあなたにとって何か意味があるとすれば、あなたの平凡な日常を死に導くということです。そこに入るともはや、信仰をあなた自身の理解の水準に押し込めることがなくなります。あなたは自分の貧しさを自覚しているので、絶えず自分を御霊に

明け渡します。そのとき、あなたの体が地上にありながらも天のもので満たされるようになります。

「悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。」(四節) 悲しみについて間違った考えがあります。スイスには墓に花輪を捧げる記念日があります。私は人々の無知を笑って言いました。「どうして墓に集まって時間を過ごしているのですか。愛する人たちはそこにいません。墓に花をあげるのは、まったく信仰ではありませんよ。」キリストにあって死んだ者はキリストと共に行ったのです。「そのほうが、はるかにまさっています」(ピリピー・二三)とパウロは言いました。

私の妻が以前私にこう言いました。「私が福音の説教をしているときの姿をあなたは見ていますね。私が福音の説教をしているとき、私はあまりにも天に近づいているので、いつの日か地上から取り去られるでしょう。」ある夜、妻が福音を語っていて、それが終わると、妻は息絶えました。私はグラスゴーに行くことになっており、妻が集会に行く直前にさよならを言ったところでした。私が家を出ようとするとき、医者と警察がドアの前に来て、伝道所の入口で妻が亡くなったことを告げました。妻は自分の望んだものを得たのだと私には分かりました。私は泣きませんでした。その代わりに、異言で祈り、主を賛美しました。自然の観点でいえば、妻は私にとってのすべてでした。けれども、私には自然の観点に従って泣くことはできませんでした。そうではなく、ただ御霊にあって笑いました。まもなく家に人々が押しかけてきました。医者が言いました。「奥様は亡くなりました。奥様のためにできることはもうありません。」私は妻の遺体のところに行き、死に向かって彼女を手放すよう命じました。妻は一瞬だけ、私のところに戻って来ました。そのとき、神が私に言われました。「彼女は私のものである。彼女は働きを終えた。」主の言おうとされていることは分かっていました。

妻はひつぎに収められました。私は息子たちと娘を部屋に連れて来て言いました。「お母さんはそこにいるかな。」子どもたちは言いました。「いいえ、お父さん。」私は言いました。「お母さんを包んであげよう。」もしあなたが愛する人を失ったとして、その人がキリストと共にいる場所に旅立ったのに、それでも墓に泣きに行くなら、あなたへの愛をもって申し上げますが、パウロが「世にとどまるよりも世を去るほうがはるかにまさっている」と言ったとき何のことを話したのか、あなたは神の与える理解を得てい

ません。私たちはこのことばを聖書から読みますが、問題はそれを信じようとしないことです。あなたが神を信じる時、こう言うでしょう。「それが何であってもまったく構いません。主よ、あなたが私の愛する者を取り去ることをみこころとされるなら、まったく構いません。」信仰は自己憐憫から来るすべての涙を取り去ります。

しかし、御霊による悲しみというものがあります。神は何かを変えなければならない場所にあなたを導きます。そこでは神が来られるときまで、悲しみ、すなわち言葉で言い表せないうめきがあります。そして、すべて本物の信仰は喜びを終着地としています。イエスさまはエルサレムのために嘆かれました。イエスさまは彼らの状態を見ました。イエスさまは不信仰を見ました。イエスさまは福音に耳をふさいだ者たちの末路を見ました。しかし、神は約束をくださいました。「彼は、自分のいのちの激しい苦しみのもとを見て、満足する」(イザヤ五三・一一)という約束です。ペンテコステの日にエルサレムで起きた出来事は、キリストの産みの苦しみの結果として刈り取るものの手付金であり、代々にわたって全世界で十億倍にも増え広がるようになりました。御霊に導かれて私たちが間違った状況に対する産みの苦しみのなかに入るとき、その悲しみが神のために結果を結び、そのことによって私たちの喜びはキリストの満足のなかにあって完全になります。

「柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。」(五節)モーセは自分の民族を想う熱心が強情なまでに強かったので、結果的に殺人を犯しました。彼の心は物事を正そうとする願いにおいては正しかったのですが、自然の観点に従って行動を起こしてしまっただけです。私たちも自然の観点に従って行動するなら、必ず失敗します。モーセは強烈な熱情を持っていました。それは、神がコントロールしてくださるなら、世界で最も素晴らしいもののひとつです。救霊の熱情になるからです。しかし、神から離れると、それは最悪なものひとつです。パウロの熱情は尋常ではありませんでした。だから彼は脅迫の言葉を吐きかけ、男も女も牢屋に投げ込みました。ところが、神がそれを変えてくださいました。のちに彼は、同胞、肉による同国人のために、キリストから呪われた者となることさえ願うようになったことが分かります。神は強情なモーセを練り上げて誰よりも柔和な男にしました。神は激しやすいタルソ人サウロを練り上げて恵みの第一人者にしました。ああ、兄弟の皆さん。神はあなたをおなじょうに変えることができになります。あなたのなかに柔和と、それだけでなくあなたに



欠けているあらゆるものを植えることがおできになります。

私たちの日曜学校には赤い髪の子がいました。彼の髪は火のように赤く、彼の気性もまた火のようです。彼は問題児でした。彼は教師たちも校長も蹴り飛ばしました。彼は単純に感情をコントロールできませんでした。彼の問題を話し合う会議を教師たちで開きました。教師たちは神が彼の保証人になってくださるかもしれないと考え、彼にもう一度チャンスを与えることに決めました。ある日、彼はついに放校されなければならなくなり、彼は教会のすべての窓を割りました。彼は内側よりも外側が悪かったのです。しばらくしてから私たちは十日間のリバイバル集会を持ちました。その集会ではたいしたことは何もなく、人々は時間の無駄だったと考えました。しかし、一つだけ結果がありました。その赤い髪の少年が救われたのです。彼が救われたあとの困難は、彼を私たちの家から帰らせることでした。彼は夜中まで教会にしようとし、泣きながら自分を従順にしてください、神の栄光のために用いてください、と神に求めました。神は少年をかんしゃく持ちから解放してくださいました。彼は最も柔和で最も美しい少年のひとりとされました。二十年間、彼は中国で力強い宣教師の働きをしました。神はありのままの私たちを受け入れてくださって、神の力によって変えてくださいます。

私は自分がかつて怒りで顔面蒼白になると全身をぶるぶると震わせたのを思い出せます。私も自分を抑えられませんでした。私は十日間、神を待ち望みました。その十日間で私の内側はすっかり空にさせられ、主イエスのいのちが私のなかに働きかけてくださいました。私の妻は私の人生に起きたこの変化を証してくれました。「こんなに変化した人を見たことがありません。そのとき以来、料理に夫が満足しなかったことがありません。熱すぎたり、冷たすぎたりしません。何もかもちょうどいいのです。」神があなたの人生に來られて最高の主権をもってご支配なさらなければなりません。あなたは神にご支配をお委ねしますか。神はそうすることがおできになります。あなたがお委ねさえすれば、神はそうしてくださいます。「古い人」を従わせようと奮闘しても益がありません。しかし、神には「古い人」を取り扱うことが可能です。肉の心は神に服従しません。しかし、神はそれをあるべき場所である十字架につけられます。そして、肉の心のあった場所に主ご自身の純粋な、聖なる、柔和な心を置いてくださいます。

「義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。」(六節)「満ち足りる (shall be filled)」ということばに注目してください。聖書のなかで「shall」がある箇所は、どれでもそれをあなたのものとしてください。条件を満たしてください。そうすれば神がご自分のことばをあなたに実現して下さいます。神の御霊が叫んでおられます。「ああ。渴いている者はみな、水を求めて出て来い。金のない者も。さあ、穀物を買って食べよ。さあ、金を払わないで、穀物を買、代価を払わないで、ぶどう酒と乳を買え。」(イザヤ五五・一)神の御霊はキリストについての事柄を知っておられ、あなたに示して下さいます。それはあなたがキリストの満ち満ちた御姿を切望するためです。そのような切望があるとき、神は間違いなくあなたを満たして下さいます。

祭りの日に礼拝に来た群衆を見て下さい。人々はまったく満足できないまま去ろうとしていました。しかし、祭りの終わりの大いなる日に、イエスさまは立ち上がって大声で言われました。「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。」(ヨハネ七・三七～三八)イエスさまは、人々が生ける水を得られないまま立ち去ろうとしていることを知っておられました。ですから、本当の供給源を人々に指し示したのです。今日、あなたも飢え渴いていますか。生けるキリストが今もあなたをご自分のもとへと招いておられます。私は証します。キリストが渴いたたましいを満ち足らせて下さり、飢餓を良いもので満たして下さいます。

スイスで、プリマス・ブレザレンの会衆の一員だった男性と知り合いました。彼はさまざまの集会に参加してきました。ある朝、パン裂きの礼拝で彼は立ち上がって言いました。「兄弟の皆さん。私たちにはみことばがあります。みことばの文字のなかに深くどまっていると感じています。しかし、私のたましいは今あるものよりもっと深く、もっとありありとした本物を求めて飢え渴いています。私はそのなかに入るまで心安らぎません。次の週、この兄弟はふたたび立ち上がって言いました。「ここにいる私たちは皆、貧しい者です。この集まりにはいのちがありません。私の心は本物を求めて飢えています。」彼は毎週同じことを言い続けたので、会衆はいらだって反抗しました。「サンズ、あなたのせいで私たちは皆、だんだんみじめな気持ちになっている。あなたは集会の邪魔をしている。あなたのすべきことはただひとつだ。今すぐに出て行ってく

れ。」

その男性は非常に悲しんで集会から出て行きました。彼が外に立っていると、彼の子どもひとりはどうしたのと尋ねました。「もっと深いものを求める神への飢え渴きが理由で会衆の真ん中から追い出すのは、正しいことなんだろうかと考えていたんだよ!」これは私が後に教えてもらうまで知りませんでした。

数日後、誰かがサンズのところに走って来て言いました。「イギリスからここに来た男がいる。異言と癒しについて話しているんだ。」サンズは言いました。「僕がその男を正してやる。集会に行って、真ん前に座って彼に聖書で問い詰めよう。スイスで異言と癒しをよくも語れるものだな。公衆の面前で思い知らせてやろう。」それで彼は集会に来ました。すぐそこに彼は座りました。彼はあまりにも飢え渴いていたので、ひとつのことばも聞き漏らさずに吸収しました。彼の反対意見はすぐに萎えてしまいました。最初の日の朝に彼は友人に言いました。「これが僕の求めていたものだ。」彼は御霊を飲み続けました。三週間後、彼は言いました。「神がいますぐ何かをしてくださらないと、僕はもうはち切れそうだ。」彼は神のなかで呼吸し、主が彼を十分に満たしてくださったので、彼は御霊が話させてくださるとおりに異言を語りました。サンズはいま福音宣教の働きをしています。新しいペンテコステ派の集まりで責任ある立場にいます。

神はご自分の最高のみわざのために人々に飢え渴きを与え続けています。そして、いたるところで神は飢えを満たしてくださり、弟子たちが初めに受けたのと同じものを与えてくださっています。あなたは飢えていますか。もしそうなら、神はあなたを満たすと約束してくださっています。